

「幾何学と不変量」

田丸 博士 (広島大学)

先端数学 (2011/07/22) 講義資料

1 本講義の概要

1.1 目的

「不変量」の考え方を知ること:

- 全ての数学に共通の「定石」.
- 知っているで見通しが良くなる.

「不変量」の例を紹介すること:

- 今までに習った概念のほとんどは不変量.
- 高校の数学でも登場していた.
- 新しい例も少し紹介.

1.2 たとえ話: 血液型

設定:

- $b : \{ \text{人間全体の集合} \} \rightarrow \{A, B, O, AB\}$,
- $b(x) := [x \text{ 氏の血液型}]$.

応用例 (パターン 1): 同一人物判定

- x_0 : 犯人 (特定できないが $b(x_0)$ は分かっている),
- x_1 : 容疑者,
- $b(x_0) \neq b(x_1) \Rightarrow x_0 \neq x_1$.

応用例 (パターン 2): 占い

- $b(x)$ から x の情報が得られる (例: $b(x) = A \Rightarrow x$ は几帳面).
- 注意: 当たるかどうかは, 今は気にしない.

2 不変量の一般論

2.1 不変量の定義

設定:

- X, Y : 集合,
- \sim : X 上の同値関係.

定義:

- 写像 $f : X \rightarrow Y$ が (同値関係 \sim に関する) 不変量

$$:\Leftrightarrow \forall x_1, x_2 \in X, "x_1 \sim x_2 \Rightarrow f(x_1) = f(x_2)".$$

(i.e., 誘導写像 $\tilde{f} : X / \sim \rightarrow Y$ が well-defined.)

2.2 不変量の使い方

注意:

- X は複雑な集合 (例: 人間全体),
- Y は比較的簡単な集合 (例: $\{A, B, O, AB\}$),
- 不変量のアイデア: 複雑な X のことが, 簡単な Y を見ると分かる.

応用例:

- (パターン 1) $f(x_1) \neq f(x_2) \Rightarrow x_1 \neq x_2$.
- (パターン 2) $f(x)$ から x の性質が分かる.

3 簡単な不変量の例

3.1 2次方程式

不変量:

$$X := \{ \text{二次多項式} \} = \{ f(x) = ax^2 + bx + c \mid a, b, c \in \mathbb{R}, a \neq 0 \},$$

$$f(x) \sim g(x) :\Leftrightarrow f(x) = g(x).$$

\implies このとき $D := b^2 - 4ac$ は不変量 (判別式).

応用例 (パターン 2):

- D の符号によって $f(x) = 0$ の実数解の個数が分かる.

(D が決まっても $f(x)$ は決まらないが, その性質が分かる.)

3.2 三角形

不変量:

- $X := \{ \text{三角形全体} \}$, \sim : 三角形の合同, に対し, 次は不変量:

$$f : X \rightarrow \mathbb{R}^3 : \Delta \mapsto (a, b, c) \text{ (三辺の長さ, ただし } a \geq b \geq c \text{).}$$

注意:

- このとき誘導写像 $\tilde{f} : X / \sim \rightarrow \mathbb{R}^3$ は単射

$$\text{(すなわち, } f(\Delta_1) = f(\Delta_2) \Rightarrow \Delta_1 \sim \Delta_2 \text{).}$$

応用例 (パターン 2):

- $f(\Delta)$ によって Δ は完全に決まる.
- すなわち, Δ の性質は $f(\Delta)$ で (原理的には) 全て分かる.
- 例 (ヘロンの公式): Δ の面積は $f(\Delta)$ で書ける.

3.3 行列

不変量:

○ $X := M_n(\mathbb{R})$: 実 $n \times n$ 行列全体,

$$A \sim B :\Leftrightarrow \exists g \in M_n(\mathbb{R}) (\det(g) \neq 0) \text{ s.t. } A = gBg^{-1}.$$

\Rightarrow トレース tr , 階数 rank , 行列式 \det , 固有値, ... は不変量.

応用例 (パターン 2):

○ $\det(A) \neq 0 \Rightarrow A$ は逆行列を持つ.

4 多面体のオイラー標数

4.1 オイラー標数の定義

定義:

- $\mathbb{R}^3 \supset M$: 多面体に対して, 次を オイラー標数 と呼ぶ:

$$\chi(M) := \#(\text{頂点}) - \#(\text{辺}) + \#(\text{面}).$$

例:

- $\chi(\text{正四面体}) = 4 - 6 + 4 = 2.$
- $\chi(\text{立方体}) = \chi(\text{直方体}) = 8 - 12 + 6 = 2.$
- 他の場合を考えてみよう... (2にならないものはある?)

4.2 オイラー標数は不変量

状況設定:

- $X := \{ \text{多面体} \subset \mathbb{R}^3 \}$,
- \sim : 連続変形で移り合う (つまり同相).

定理:

- 多面体のオイラー標数は, 同相に関する不変量.

(逆にこれを知っていれば, $\chi(M) \neq 2$ の例を思い付くはず...)

応用例 (パターン 1):

- 球面 S^2 とトーラス T^2 は同相でない.

5 平面曲線の曲率

5.1 平面曲線と曲率の定義

定義:

- $c : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ が なめらかな曲線の弧長パラメータ表示
: \Leftrightarrow (1) c は C^∞ -級, (2) $\forall t \in \mathbb{R}, |c'(t)| = 1$.
- c_1 と c_2 が 合同
: $\Leftrightarrow \exists A \in O(2), \exists v \in \mathbb{R}^2$ s.t. $\forall t \in \mathbb{R}, c_2(t) = Ac_1(t) + v$.
- $\kappa(t) := |c''(t)|$ を 曲率 と呼ぶ (注: 正確に言うと曲率の絶対値).

イメージ:

- 曲率 = 一定の速さで走った時の加速度 (横 G) の大きさ.

5.2 曲率は不変量

定理:

- なめらかな曲線の弧長パラメータ表示に対して,
曲率 $\kappa(t)$ は合同に関する不変量.

応用例:

- 半径が異なる円周は合同ではない (パターン 1).
- $\kappa(t) = 0$ ($\forall t$) ならば c は直線 (パターン 2).

6 レポート問題

問題 (以下から 4 題以上選択):

- オイラー標数が $\chi(M) \neq 2$ となる多面体の例を挙げよ.
- 平面曲線の曲率が, 合同に関する不変量であることを示せ.
- 半径が異なる円周は合同ではないことを示せ (応用例パターン 1).
- $\kappa(t) = 0$ ($\forall t$) ならば c は直線であることを示せ (応用例パターン 2).
- 本講義でとりあげた以外の不変量の例を一つ挙げよ.
また, それが不変量であることを示せ.
- 高校数学で登場する不変量の例を一つ挙げよ.
また, それについて高校生向けの説明をせよ.